

新しいもち米品種「愛知糯115号」の特性

～色白で大粒！もち、おこわの食味が良好なもち米新品種「愛知糯115号」～

加藤満（農業総合試験場作物研究部作物研究室）

【平成25年10月22日掲載】

【要約】

「愛知糯115号」は、現在の水稻もち奨励品種「十五夜糯」、「喜寿糯」と比較して、収量が多く、玄米は大粒で白く、外観品質が良好である。栽培特性では、^{かん}稈が太くて強いために倒れにくい。また、「十五夜糯」、「喜寿糯」が持たない^{しまはがれびよう}縞葉枯病抵抗性を持ち、穂いもちにも強いため栽培しやすい品種である。

1 はじめに

近年、もち、みりんなどのもち米加工商品の地域ブランド立ち上げを志向する産地やメーカーが現れ、地域特産品の開発も試みられるなど、地産地消の気運の高まりから地場産もち米の需要がある。そのため、病害抵抗性や耐倒伏性など、栽培安定性に優れ、高品質で多収、さらに、差別化、高付加価値化などのニーズに合致したもち米の新品種開発に取り組んだ。

2 生育特性（写真1、2、表1）

- (1) 出穂期は「十五夜糯」より早植栽培（5月中下旬移植）では3日遅く、普通期栽培（6月上中旬移植）では同じで、愛知県の熟期区分では「あいちのかおりSBL」級の“中生”である。6月上中旬の田植えで、10月上中旬の収穫となる。
- (2) 稈長は「十五夜糯」とほぼ同じで、穂長はやや長く、穂数は少ない。
- (3) 病害抵抗性では、^{しまはがれびよう}縞葉枯病抵抗性を持ち、穂いもち抵抗性が“やや強”である。
- (4) 稈は太くて強く、耐倒伏性は“強”である。
- (5) 穂発芽性は“難”で、“やや易”の「十五夜糯」より優れる。
- (6) 収量は早植栽培、普通期栽培ともに、「十五夜糯」より、10%程度多収である。
- (7) 玄米は極大粒で、白度が高く、外観品質が良好である。

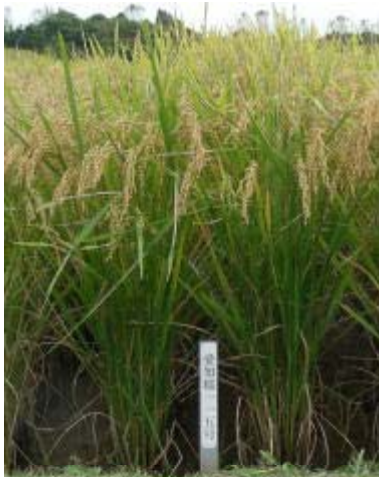


写真1 成熟期の草姿



愛知糯115号 十五夜糯

写真2 玄米の比較

表 1 愛知糯 1 1 5 号の特性

系統名	愛知糯115号 (組合せ:愛知糯103号/あ系糯783)					
作期	早植(5月中下旬移植)			普通期(6月中旬移植)		
品種・系統名	愛知糯115号	十五夜糯	喜寿糯	愛知糯115号	十五夜糯	喜寿糯
早晚生(愛知県)	中生	中生	早生	—	—	—
出穂期(月日)	8.21	8.18	8.14	8.27	8.27	8.22
成熟期(月日)	10.01	9.26	9.23	10.13	10.11	10.02
稈長(cm)	77	76	75	74	73	74
穂長(cm)	19.8	19.4	21.3	20.1	19.5	20.7
穂数(本/㎡)	260	332	325	303	356	390
縞葉枯病	抵抗性	罹病性	罹病性	—	—	—
穂いもち	やや強	やや強	弱	—	—	—
白葉枯病	中	やや弱	弱	—	—	—
耐倒伏性	強	強	やや強	—	—	—
穂発芽性	難	やや易	中	—	—	—
精玄米重 (十五夜糯対比・%)	111	100	100	111	100	98
玄米千粒重(g)	28.7	21.2	22.1	27.8	21.9	22.2
外観品質	5.1	5.4	5.4	4.7	5.2	4.9

注. 外観品質は、1(上の上)～9(下の下)の9段階評価、5が1等、6が2等相当(検査等級)

3 食味及び加工特性

- (1) 切りもちの色は、「十五夜糯」に比べて、くすみが少なく、白い。
- (2) 煮もちの食味は、「十五夜糯」に比べて、のび、粘りが優れ、総合評価が高い。
また、おこわは、大粒のため見栄えが良く、食味評価が高い。
- (3) もちの硬化が早く、切りもち、米菓の製造工程で成形、切断等の作業効率が高い。

4 現地試験結果及び普及性

2008年から2012年にわたり、県内延べ20か所のほ場で現地適応性について検討した結果、「愛知糯115号」は収量では「十五夜糯」に比べ多収を示す試験結果(全試験平均:十五夜糯対比110%)が多くみられた。外観品質は1等相当以上の高品質であり、玄米白度が高かった。これらのことから、全ての試験地において、「有望～やや有望」の高い評価が得られた。

「愛知糯115号」を導入することにより、地産地消の推進、地域特産品の開発、6次産業化など、新たな展開が期待される。